



### 【約束の通りに臨まれた聖霊の神様】

聖書:使徒の働き2章1-4節/ 暗唱聖句: ヨハネの福音書16:13

説教者: 鄭南哲牧師  
(Rev. Jung nam-chul)

使徒の働き2章1-4節の聖霊が炎のように臨在された箇所ほどいろんな論争や意見の葛藤があるところはないと思います。この箇所をどう解釈するかによって教会が分かれてきます。何よりも聖霊が我々の霊的な目を開いてくださるということを忘れないで聖霊に頼る心で、この箇所を読みしたいと思います。

聖書を理解する時に、一部分だけをとって読んではいけないことをみなさんもよくご存知だと思います。今日の本文である聖霊の臨在されたところはおさらです。この御言葉の背後には旧約があり、福音書があります。そしてこの出来事を解釈してくれる手紙があります。全体的な背景と根拠をもとに検討したうえでの解釈こそが偏らないで理解することができると思います。

聖霊の臨在の出来事を読むたびによく、“自分や、我々の教会にもこのようなことが一度起こったら。礼拝の途中で突然天から風のような音がなり、目を開いたら炎の舌のようなものが降りたり、突然いろんな異言が出たり、そのため教会の周りの人々がびっくりして見に来る出来事が起こったらどんなにすばらだろうか。そうすればもっと信仰が強くなり、心も熱くなって何か変化が起こるかも”という欲を持てるかも知れません。もしこのような五旬節の聖霊降臨がまたされるのであれば、毎日これだけのために必死に祈ると思います。しかしいままでの2000年の間、五旬節の聖霊降臨と同じ出来事は一度も繰り返されたことはありません。そしてこれからも繰り返されることはないと思います。

#### <約束の通り来られた聖霊様>

聖霊降臨は神様が我々に与えてくださった約束が成就された出来事です。突然起こった出来事ではありません。一生懸命に祈ったから、特別に聖霊が臨在されたわけでもありません。神様の約束のためです。神様が約束されたから、約束の通り、イエスキリストの地上での働きが終わったので約束された聖霊が臨在されたのです。

すると、いつこの約束をくださったのでしょうか？ 旧約のヨエル書までさかのぼっていきます。

使徒の働き2章17-18節でペテロがヨエル書を引用します。

“神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。その日、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。(2:17-18)”

“その日、わたしは、しもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。(ヨエル書2:29)”

また、マタイの福音書3章では、バプテスマのヨハネの口を通して神様は約束されました。

“私は、あなたがたが悔い改めるために、水のバプテスマを授けていますが、私の後から来られる方は、私よりもさらに力の在る方です。私はその方のはきものを脱がせてあげる値うちもありません。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。” (マタイの福音書3:11)

なによりイエスキリスト御自身が約束されました。

“さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。” (ルカ24:49)

イエス様は父の約束された聖霊を受けるまではエルサレムを離れないで待つようにと言われました。イエス様はヨハネの福音書でも約束されました。(ヨハネの福音書16:7, 13)

“しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、行けば、わたしは助け主をあなたがたのところに遣わします。” (ヨハネの福音書16:7)

“しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく聞くまを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。(ヨハネの福音書16:13)”

“あなたがたにも、今は悲しみがあるが、わたしはもう一度あなたがたに会います。そうすれば、あなたがたの心は喜びに満たされます。そして、その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません。(ヨハネの福音書16章22節)”

イエス様は真理の御霊である聖霊が臨在されれば、いつも我々を真理に導き、我々の中に住まれ、我々といつものとおられるので、我々に益となり、喜びで満たされると何度も何度も繰り返して教えてくださいました。そして、イエス様がこの世を去るのは我々に益となり、自分が去っていけば聖霊が来られると言われました。

復活された40日の間、イエス様はその時も御国と聖霊を同時に言及されました。そして昇天される直前までも、“あなたがたはかならず、まもなくうちに聖霊のバプテスマを受ける”とはっきりと言われ、“聖霊が臨まれると、あなたがたは力を受けて、わたしの証人となります”と約束して天に上げられました。

すべてが約束です。このような神様の約束と計画のゆえに、イエスキリストの地上での働きが終え、約束された聖霊が臨まれたことを覚えなければなりません。

つまり、五旬節の聖霊の降臨の出来事はあくまでもイエス様が十字架にかかって死んで、三日目によみがえられ、全人類に永遠の命をくださる扉を開けてくださったゆえに起こった御業でした。もし、イエスキリストが十字架と復活をとおして救いの

御業を成就されなかったなら、聖霊様も決してこなかったし、来られるなんの理由もありません。

そういうわけで、イエス様がこの地上に来られたことが繰り返されない唯一の出来事であるように聖霊降臨も何度も起きるものではありません。イエス様がこの世に来られたとき、御使いたちが、羊飼いらが、喜びながら、ほめたたえましたが、イエス様のこのような誕生はたった一度で終わったことであって、繰り返されたことはありません。御子イエスキリストが十字架を背負うためにこの世に来られたことも、聖霊がイエス様の代わりに教会に臨在された御業も一度の出来事によって始まることであって、行ったり、来たり繰り返されるはずがないということです。

我々がよく間違いやすい一つは聖霊を悲しませたら、聖霊が我々を離れ、恵みがあふれるとふたたび我々に入ってくるように思う傾向がありますが、これは正しくありません。イエス様の十二弟子たちがイエス様にいつもついていながら、どれだけイエス様を悲しませたことがたくさんあるのでしょうか。その都度、イエス様は弟子たちを捨てて離れましたか？弟子たちが悔い改めながら“おお、主よ。。ふたたび来てください。”とお願いするとふたたび現されましたか？違います。弟子たちによって困らされ、いろんな面において信仰の弱い行動も多くなりましたが、御子イエスキリストはその都度、離れないで、弟子たちとともにおられました。

愛する信仰の家族のみなさん！

聖霊様も同じです。一度、教会に臨在された聖霊様は主の言われた通りにこの世の終わりまで離れないで、我々とともにおられると信じます。我々とともにおられる聖霊様は我々が弱くて聖霊を悲しませ、従わない時に、たしかに嘆き悲しみますが、決して我々を離れることはありません。我々が罪を犯し、神様の御前で怠けて、完全に従わないため、聖霊が我々のうちで、力強く働くことを私たちが妨げてしまっただけです。

愛する信仰の家族のみなさん！

この時間、聖霊が我々に臨在されていることを感謝し賛美しましょう。主の御教会とともにおられることを感謝しましょう。聖霊が五旬節奥まった部屋に臨在されなかったなら、我々は決してイエス様を信じることができなかったでしょう。聖霊の助けなしにどうやってイエス様を私の救い主として受け入れることができたのでしょうか。？  
聖霊様の働きなしにイエス様が私の罪のため十字架につけられ死なれ、よみがえられたことをどんな洞察力で確信し、信じることができたのでしょうか。？

五旬節に起こった聖霊降臨の出来事は一度だけの出来事です。約束された出来事です。イエス様の贖いの御業が完成されたからこそついてきた約束された御業であって、突然起こった出来事ではありません。人々が切に祈り求めたから起こった出来事ではなおさら違います。

ですから、我々が五旬節に臨在された聖霊がそのときのように臨在されるようにと祈り求めることは聖書的ではないと思います。むしろ、すでにこの地に来られイエスを信じるように、救われるように働いてくださった内住されておられる聖霊に感謝と賛美をささげ、日々、もっと敏感に聖書の御言葉と祈りをとおして内在されておられる聖霊の御声を聞き、導きによって聖霊に満たされるように求めることがもっと正しいと思います。

このためにともに祈ることにより、始まったこの11月ふたたび、聖霊に満たされ、導かれ力強く生きるクリスチャンプレイズチャーチの全神の家族となりますよう主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！！